

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室 中桐正夫

* 「SUN-SPOT Observation IV 1890・・・」と書かれた観測野帳を発見

アーカイブ室新聞第406号に「「II 1888-1889・・・」と書かれた観測野帳を発見」という記事を書いた。今回発見した観測野帳は、おそらく406号で書いた「II」に続いた「III」、「IV」の「IV」であろうと思われる。こうなってくると「I」、「III」が発見されないのが残念である。アーカイブ室新聞第390号(2010年10月18日)に「明治22年(1889年)の太陽観測録発見」という記事を書いた。この太陽観測録は渡邊恒氏が平山信の代理で観測した記録であった。今回発見された「SUN-SPOT Observation・・・」(写真1)は1890年1月3日から観測が始まっているから、年代順に並べると、

「II 1888-1889 Tokyo Tenmondai S.H.」: 1888年12月6日～1889年6月18日

「太陽観測録」: 1889年8月5日～1889年8月17日

「SUN-SPOT Observation IV 1890・・・」: 1890年1月3日～1890年6月8日

となる。

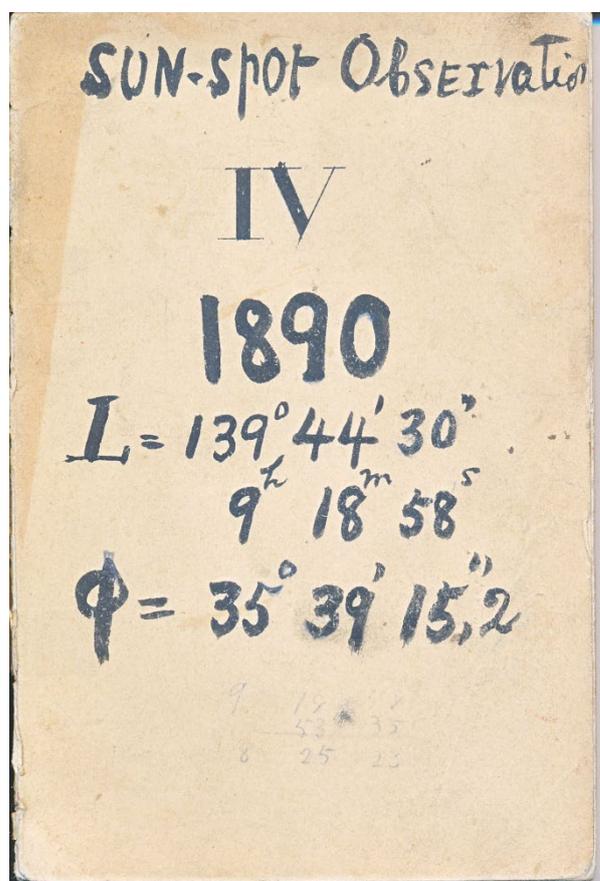


写真1 今回発見の観測野帳

このように並べてみると「太陽観測録」は、このシリーズの「Ⅲ」のように思える。そして「太陽観測録」には明らかに太陽の黒点をスケッチしたように見える絵が毎日載っている（写真2）が、その記述は8月17日で終わっており、次の観測は1891年1月13日から始まり、1891年8月30日までつづくが、太陽観測ではないようである。「SUN-SPOT Observation IV 1890・・・」の1890年1月5日、6日のページが写真3である。

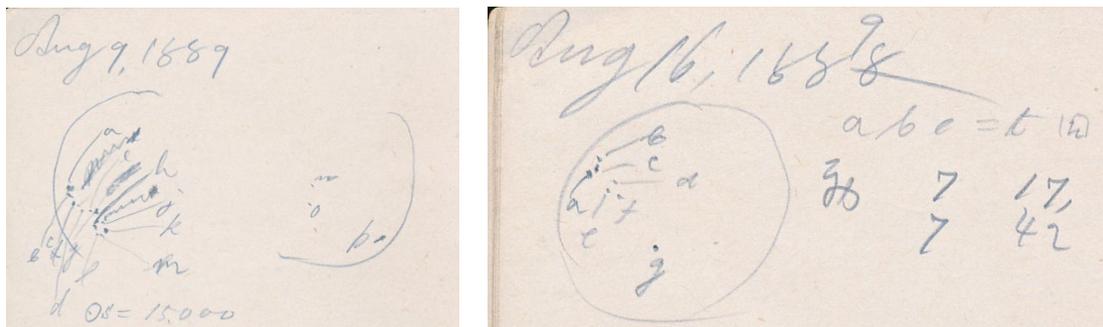


写真2 太陽観測録の黒点のスケッチ図

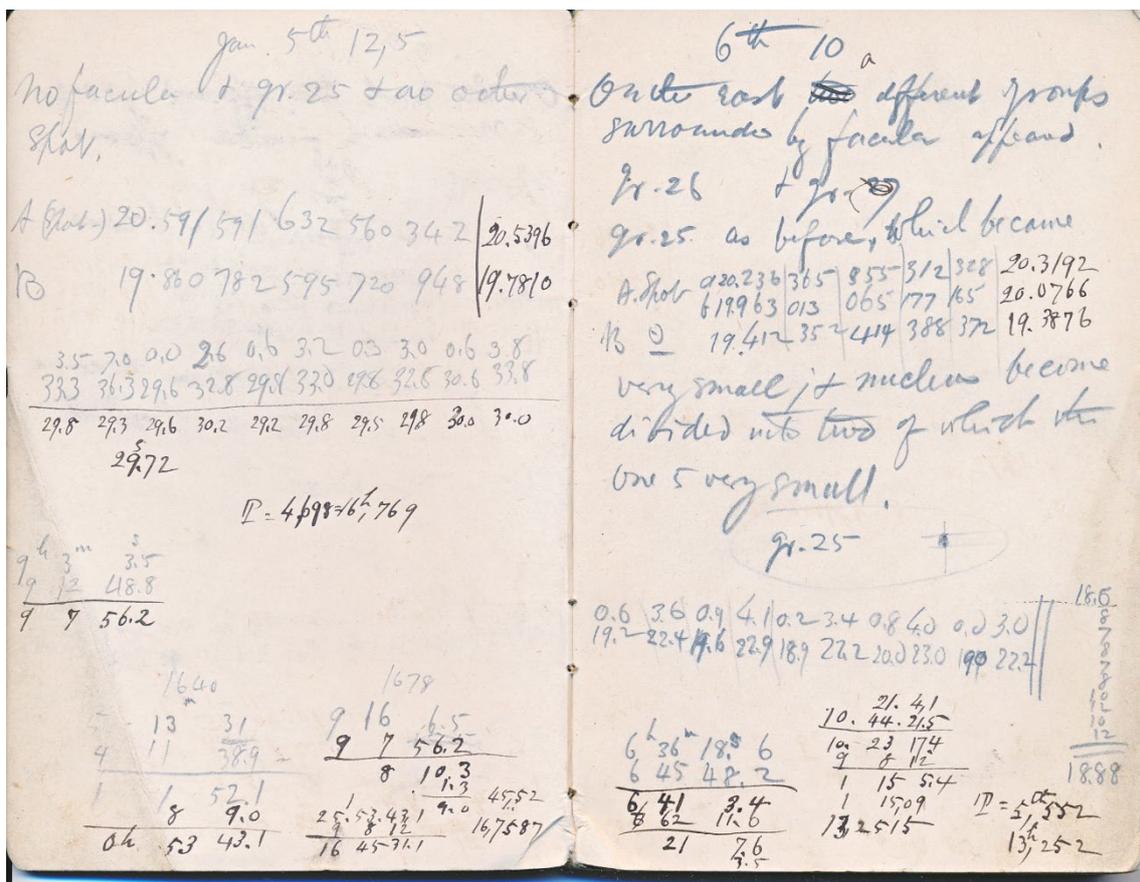


写真2 1890年1月5日、6日のページ

この1月5日、6日のページに見るように太陽黒点のスケッチらしいものはほとんど見られない。また1月8日から1月18日が見開きページ（写真2）になっているが、ほとんどが no spot、no facula である。1890年は太陽活動の極小期だったのであろうか。図1が

1850年から1950年の100年間の太陽黒点の相対数を表した図である。確かに1890年は極小期であったことが分かる。

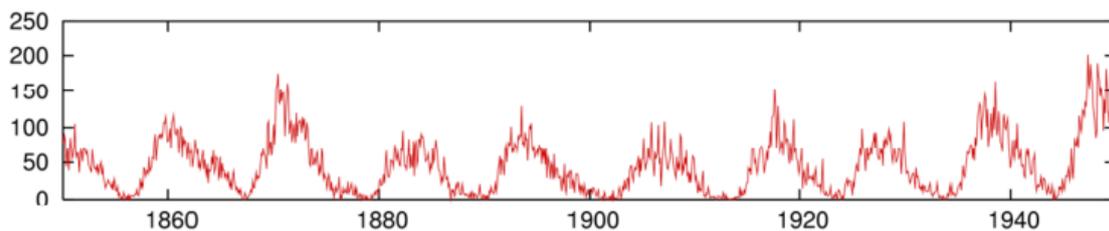


図1 1850年～1950年の黒点相対数

今回の観測野帳「SUN-SPOT Observation・・・」の1890年1月8日～1月8日(写真3)はほぼ、no spot & no facula であり、太陽活動の極小期を物語っている。

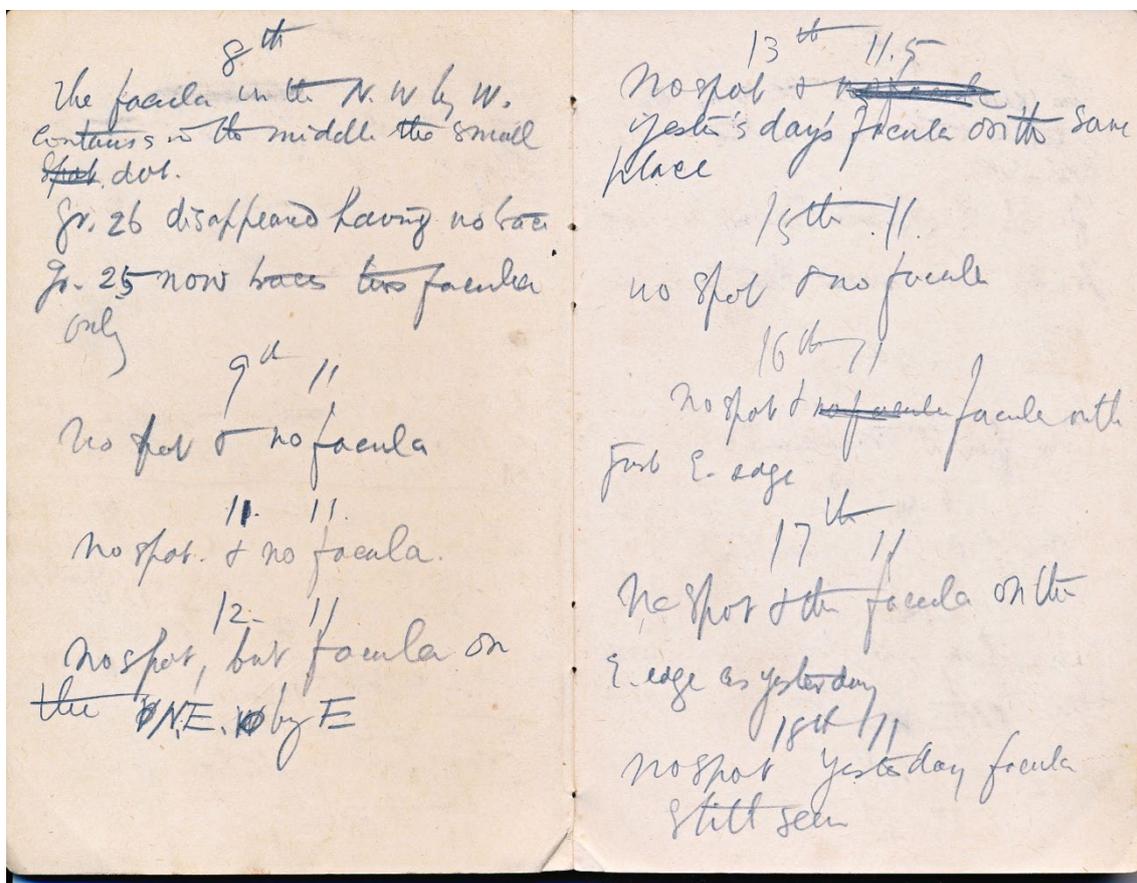


写真3 連日、no spot & no facula

この観測野帳も全てのページをスキャナーで取り込みデジタルデータとして収録した。当時の太陽活動に興味がある方には提供できる。